

大極殿棟飾り考

大阪成蹊短期大学名誉教授 岡田 保造



平城遷都一三〇〇年を迎えて文化庁が復元した第一次大極殿が完成した。その大極殿の大棟中央に飾りがついているのを映像で見て、宮殿として大きな違和感を覚えた。すぐに現地へ行き、飾りを実見すると法隆寺夢殿の飾りそのままの宝珠であった。①



この飾りについて文化庁は創建時に存在した証拠はないが荘厳化の為に設置されていたと想定し、文献上では西大寺薬師金堂には飾りがあったといっている。^①

この大極殿の復元について元奈良文化財研究所長の鈴木嘉吉は「大極殿は屋根が二重か一重かわかりません。平面も発掘では

基壇の一番下の輪郭線しか出なくて、壇の上に礎石がどう並んでいたのかわからないのです。…結局中国の例からみて、おそらく二重だろうということになり設計しました。」という。^②

つまり復元大極殿は構造的には中国風にし、長い大棟には中央飾りでアクセントをつけたのである。

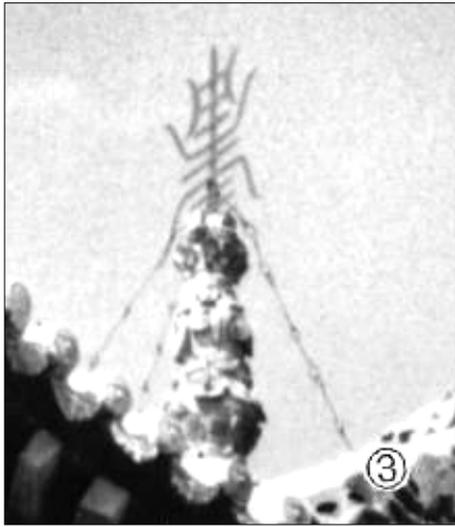
それでは中央飾りの一般的な在り方をみてみよう。

平城京のモデルとなったのは唐の長安城で、長安の宮城は平城京と同じく京の北端中央部にあった。

その中心となる建物は太極殿で、「唐太極宮示意図」^③によると太極殿②の大棟に飾りは無い。また宮城の東南にあり玄宗が政治を執った興慶宮の建物についても、西安碑林にある石碑に彫られた「宮廷図」に大棟飾りは見えない。

一方中国の寺院では大棟の中央に飾りを見る人が多い。

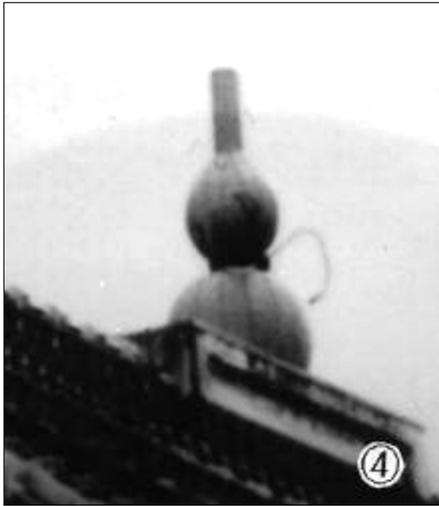
女王卑弥呼の時代に魏国の都であった洛



陽に白馬寺がある。白馬に背負わせてインドから伝来した経典を安置するため六八年に創建されたという伝説の寺院である。兵火で焼けたのち明代に大規模な修復がなされ現代の規模となった。その天王殿の大棟中央に円形仏光の飾りがつく。

西安（長安）では孔子や周公の古廟建築にも大棟中央に飾りがついている。

黄河上流の寧夏回族自治区の清真大寺③（イスラム教寺院）やチベット自治区のラマ教寺院でも独特の中央飾りが見られる。



さらに明代万里の長城の西端である嘉峪関で東西の門の楼閣大棟にそれぞれ瓢瓶形宝珠がついているのが興味深い。それは長崎市風の頭山西麓にある、中国僧が一七世紀に開いた黄檗宗の崇福寺と興福寺④の三門や大雄宝殿（いづれも国宝）にも瓢瓶の中央飾りがつき、魔よけとされているからである。嘉峪関は外敵の侵入を防ぐ重要関門で、魔よけが必要な場所である。

崇福寺では三門上層の垂木と桁にも魔よけの効用がある宝尽くし文様が見事な彩色で描かれている。

復元大極殿に関して文化庁がいう西大寺薬師金堂の飾りは、創建時の伽藍を想定して元禄十一年（一六九八）に描かれた『西大寺伽藍絵図』（西大寺蔵）によるもので、称徳天皇の一大事業として成った西大寺の壮大な伽藍のうち薬師金堂にのみ大棟に円状の中央飾りが描かれている。

けだし大棟の中央飾りは寺院建築を荘厳するものである。

(1) 阪口孝男報文『つどい』第二六五号
平成二二年

(2) 対談『明日香風』第一一四号、平成二二年

(3) 王崇人『古都西安』陝西人民美術出版社、一九八一年

(4) 漢魏城文物保管所『漢魏洛陽故城』洛陽市第四印刷厂 一九八五年

(5) 岡田保造『魔よけ百科・世界編』

丸善株、平成二〇年



岡田保造先生のプロフィール

(会員) 阪口孝男

このたび本誌に『大極殿棟飾り考』を寄稿して頂きました岡田保造先生（大阪成蹊短期大学名誉教授）は、一九三五年大阪市のお生れで、立命館大学・関西大学を卒業。日本史がご専攻で、その著書は多数ありますが『魔よけ百科』かたちの謎を解く『魔よけ百科 世界編』呪物のかたちと謎』など魔よけ研究・コレクターの第一人者。国体山岳競技に二回出場された脚力を生かされて、今でも世界中に魔よけの研究を追いかけておられます。

また、長年に亘って近鉄文学散歩の講師や近隣自治体の歴史講座の講師を務めて来られた先生です。

岡田先生からのメッセージ

岡田先生から『つどい』へのご寄稿にあたって、次の様なメッセージを頂いております。

「初めまして岡田です。

本誌二六五号に阪口孝男さんが復元大極殿の珍しい大棟飾りについて書かれていたのが目に留まりました。この飾りについては私も違和感を感じていたので、阪口さんに私信でその旨を伝えた。阪口さんは国内外の史跡巡りを数回ご一緒したお仲間である。その私信の内容を原稿にとの依頼を受けたのが今回の『つどい』とのご縁である。

私と豊中市とのご縁は深く、かつて中央・千里・庄内・蛍池の各公民館で歴史講座を担当し、中でも千里公民館での講座は一九八二年より二十年間、一九〇回に及び、受講者は延べ一万八千人を数えた。

四十一年前、大阪城石垣の刻印調査をし、刻印の中には護符的な性格を持つものがあるのではないかと考え、以来、古今東西に護符（魔よけ）となる形を追求している。その過程で、かねて寺院の大棟飾りにも興味を持っていたのである」

読書室

『古代大和の謎』 (学生社)

大和文化会編 2800円＋税

塚口義信先生を始め、十一名の先生による大和文化会の講演の再録、もしくは講演を基に最新の研究成果を加えて、再執筆されたものが大和文化会の記念誌として刊行されました。

天之日矛伝説、大和王権の成立、古墳群からみる大王・氏族の系譜、天皇陵と風水思想、獸頭人身像の謎、聖徳太子と法隆寺の謎、新益京・藤原宮、平城京などの生活と宗教、渡来人とその技術などをめぐる古代日本や古代大和の謎に挑む、などの内容です。

